

「探究★大地のひみつ～わけるくんとつなぐちゃん～」

事業報告書

1. 趣旨

南アルプスジオパークの豊かな自然環境を舞台に、自然体験活動や見学等を通じて、雄大な自然の魅力を体感するとともに、地形や生態系など自然の仕組みへの理解を深める。また、自然がもたらす恩恵と脅威の両面に目を向け、地域の特性を学ぶことで、郷土愛の意識を高める。

2. 事業の概要

(1)期 日 令和8年 8 月 9 日(日)～8 月 11 日(火・祝)

(2)参加者 26 名(男 19 名・女 7 名) ※1 名が自己都合で、2 日目夕方までの参加。

小学 5 年生＝13 名、小学 6 年生＝9 名、中学 1 年生＝2 名、中学 2 年生＝1 名

(3)日 程

日程	午前	午後	夜間
8/9 (日)	自然の家集合 10:30 (茅野駅 9:30)	ジオパークの話／新開発！ジオ炊飯	
8/10 (月)	大鹿村中央構造線博物館見学・露頭探検・井戸の謎 (終日、大鹿村、伊那市エリアでの活動)		
8/11 (火)	大地の恩恵 (地中熱・温泉入浴)	まとめの活動／茅野駅解散 15:30(自然の家解散 16:15)	

(4)連携機関 ※順不同

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会／大鹿村教育委員会(大鹿村交流センター)

伊那ジオガイド会／湯元塩湯荘／鹿塩直売所／道の駅 歌舞伎の里大鹿／片倉館／ハヶ岳総合博物館／諏訪市美術館

3. 企画運営のポイント

◇地域との連携による「つながりのあるプログラム」の構築

ジオパークをテーマとした学びをより充実させるため、新たな連携先の開拓を進め、専門家や博物館職員、地域のガイド等の協力を得ながら、地質・地形を多面的に学ぶプログラムを構築した。

事前の下見や実地踏査、関係者との打合せを重ね、それぞれの学習内容が単独で完結するのではなく、前後の活動と関連付けながら学びを深められるよう、全体の流れを意識して企画した。その結果、地域の特色や専門性を生かしながら、座学と体験を組み合わせ、ジオパークならではの「つながりのある学び」を具現化することができた。

◇繁忙期における人的・車両配置の工夫

夏季の繁忙期における事業実施であったため、研修支援業務との重複を考慮し、職員、ボランティア、社会教育実習生等の人的配置と、公用車・バス等の車両配置について事前に綿密な計画を立てた。

複数の活動を想定したシミュレーションを重ね、当日の役割分担や移動方法を事前に確認することで、限られた人員・車両を有効に活用し、研修支援と教育事業の双方に支障が生じないよう運営した。

◇猛暑を想定した熱中症対策

真夏の屋外活動や長時間の移動を伴うことから、熱中症予防を重点事項として位置付け、水分の配給量やタイミング、活動場所等を事前に検討した。社会教育実習生の協力を得て、移動前や活動の区切りなど適切なタイミングで水分を配布できる体制を整え、参加者の体調変化にも注意しながら活動を実施した。

◇アレルギーへの柔軟な対応と安全の確保

調理活動において重度のアレルギー対応が必要な参加者がいたため、事前に関係者間で情報を共有し、食材や調理内容、会場を含めて活動方法を再検討した。

直前の変更となったが、安全を最優先としてメニューや会場を変更し、スタッフ間で役割を確認しながら対応した。食材やメニューは当初の計画から大幅に変更したものの、「ジオ飯づくり」というテーマとの関連性を維持し、断層や大地のつながりを意識した内容として実施することができた。

◇ワークシートの活用

グループ発表を目的とせず、個人の探究にスポットをあてるため、各プログラムで得た気づきや学びを整理し、活動間の「つながり」を意識できるよう、活動ごとにワークシートを用意した。受け身の見学にとどまらず、参加者自身が考えながら学習できるよう資料をファイリングできるように工夫した。

紙媒体の「ワークシート」や夜のふりかえり新聞を活用することで、現地で気付いたことや感じたことを自由に書き留められるようにして、学びを振り返る機会とした。

4. 参加者の声

◇みんなで協力して楽しくできたので良かったです。

◇もっと記録の時間がほしかった。様々な事をできて良かった。

◇またこういうプログラムがあったら参加したいです。中学生も対象をお願いします。

◇交友関係もふかめられるし、文化のことも知れるから楽しかった。

◇行ったことが無いところにたくさん行けて良かった。大鹿村での井戸はおもしろかった。

◇他にもたくさんの友達ができたから良かった。

◇すごく楽しかったです！また行きたいです！ 4件

◇まんじゅうが美味しかった。はじめて大鹿村に行けてよかった。

◇友達がたくさんできてよかった。ボランティアや実習生のみんながやさしく接してくれて

うれしかった。これで1万円は、とっても安いと思いました。

◇アイスが美味しかった。塩水の出る井戸は、千と千尋の神隠しに出てきそうだった。

◇今回と同じ感じにしたら楽しいと思う。

5. 事業の様子

<活動の様子>

【導入「ジオパークってなあに？」】大亀氏



【ジオ飯を作ろう①】



【ジオ飯を作ろう②】



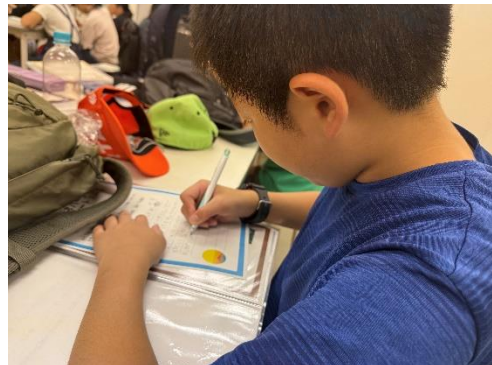
【ジオ飯を作ろう③】地層イメージのサンド



【ワークシート】



【ふりかえり新聞】



【溝口露頭(美和ダム)の見学①】



【溝口露頭(美和ダム)の見学②】



【大鹿村中央構造線博物館見学①】



【大鹿村中央構造線博物館見学②】



【塩水が出る不思議な井戸見学】



【塩味のアイス】



【花火(特別プログラム)】



【奇跡の風景(盆地から100km先の富士山をみる)】



【諏訪市美術館見学(地熱利用施設)】



【茅野市八ヶ岳総合博物館見学】



6. 成果と課題

(1)参加者アンケート結果 ※アンケート回収 25名分（参加者26名/回収率96%）

ボランティア養成研修全体を通して	満 足：22名	88%
	やや満足：3名	12%
	やや不満：0名	0%
	不 満：0名	0%

(2)成果と課題

当事業は、博物館や地域のガイド等、多くの関係機関と連携し、地質・地形についての座学と現地での体験を組み合わせることで、個々の活動がつながり、参加者が「大地のひみつ」を横断的に学ぶことのできるプログラムとなった。

一方で、新規事業であったことから、活動内容や移動、配車、安全管理等について、実施を通して明らかになった課題も多くあった。

プログラム面では、専門的な内容を小中学生にも分かりやすく伝えるため、専門用語のかみ砕きや視覚資料の充実、発表や意見交換の時間の設定など、参加者が主体的に学ぶための工夫が必要である。また、露頭の比較観察や岩石採取・標本づくり、防災教育との関連付けなど、地域の特色を生かした体験活動をさらに充実させることも課題である。加えて、ボランティアについては、アイスブレイクや調理、安全管理等に必要な知識・技能を事前に共有し、役割に応じた研修を行う必要がある。

運営面では、公用車やバスの配車、職員・ボランティア等の適正な配置、猛暑下における移動時の熱中症対策、施設や活動場所における危険箇所の事前確認など、安全面を含めた運営体制の事前確認（綿密な実地踏査や下見）を継続する必要がある。

今後は、今回構築した地域の博物館、ガイド等との連携を継続・発展させながら、自然の家周辺で実施可能なジオパーク学習の開発にも取り組みたい。

特に、伊那地域の断層帯と関連付けた防災教育や、河川敷での岩石観察・採取など、地域の地質的特色を生かした体験活動を取り入れることで、より探究的で参加者の主体性を引き出す事業へと発展させていく。また、今回の実践で得られた課題やノウハウを整理し、次年度以降のプログラム改善と運営体制の確立につなげていく。

（文責：主任企画指導専門職 兼 事業推進係長 阿部広之）